

# 第2次岸和田市観光振興計画(素案/概要版)

## I章 第2次岸和田市観光振興計画の策定にあたって(3~6P)

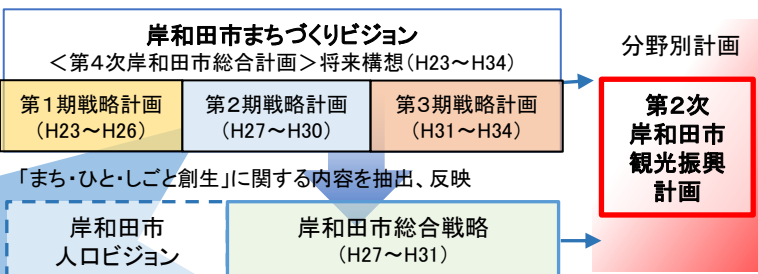
### 1.第2次岸和田市観光振興計画策定の目的

市内の豊かな観光資源を市民の暮らしや産業として結び付けることで、地域活性化の方策とした観光振興が求められている。  
前計画策定から10年が経ち、新たに整備された観光資源などにおいて、一定の賑わいが散見できるものの、市内を広く見渡すと計画の実現状態は未だ十分ではない。第2次計画として下記を再設定する。

**観光振興で目指す姿**  
＜第2次岸和田市観光振興計画の基本的な考え方＞  
**地域資源の魅力再発見・深化し、さらなる賑わいを創造する。**

### 2.岸和田市の施策と第2次岸和田市観光振興計画の位置づけ

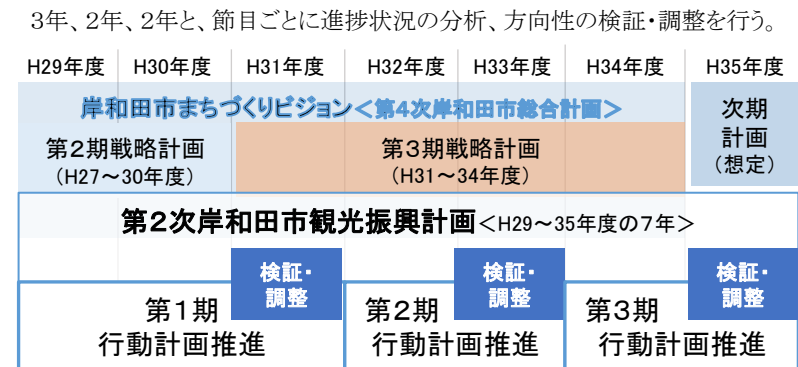
市の上位計画を踏まえたうえで、他の分野別計画とともに位置づける。



### 3.策定体制

学識経験者、公共的団体の代表者、交通事業者、旅行事業者および公募市民で構成される「岸和田市観光振興計画推進委員会」を設置し、策定を行った。

### 4.行動計画の設定年について



## 第II章 岸和田市を取り巻く観光の現状(7~13P)

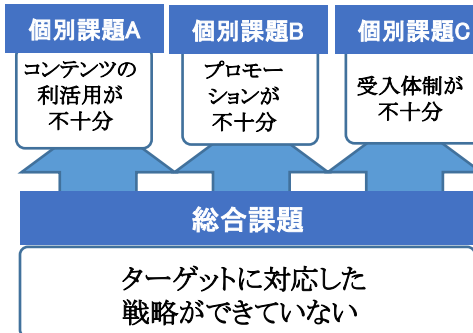
- 1.国の施策「明日の日本を支える観光ビジョン」
- 2.大阪府の観光戦略
- 3.関西国際空港における訪日外国人観光客動向
- 4.岸和田市における観光の現状

国、大阪府の観光施策の把握、また、インバウンドをはじめ、本市へ来訪する観光客の状況を整理。

## 第III章 岸和田市における観光の課題と強み(14~16P)

### 1.岸和田市における観光の課題

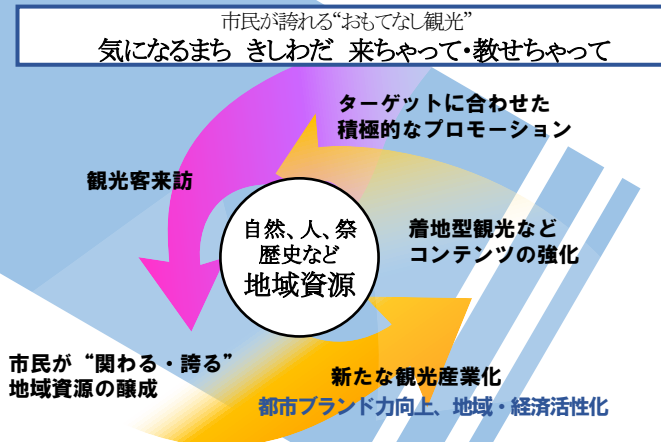
前計画と提言書を整理したうえで現状を分析して、本市における観光の課題を整理し、委員会において意見をまとめた。  
これらの課題の解消を目標とし、本計画では新たな方向性を示す。



## 第IV章 岸和田市が目指す観光振興のあり方(17~20P)

### 1.基本方針 目指す姿とスローガン

課題と強みなどから、観光振興で目指す姿に近づくための仕組みや、実現に向けての本計画のスローガンを設定。



### 2.目標設定 事業評価基準について

総合戦略の数値目標・評価指標に加えて独自の目標値・指標を設ける。

指標名	基準値
岸和田が多く観光客でにぎわい、観光の振興が十分な状態であると感じている市民の割合	15.6% (H27) →19.0% (H31)
1年間の主要観光施設及びイベント等への観光入込客数	287万人 (H26) →287万人 (H30)
具体的な取り組み	重要業績評価指標
岸和田だんじり会館入場者数	36,433人 (H26) →37,000人 (H30)
岸和田城天守閣入場者数	43,397人(H26) →45,000人 (H30)
新たな数値目標・指標の設定	
宿泊施設利用者数、HPアクセス数ほか新たに設定	

### 3.方向性 ターゲット

本市の観光状況を分析し、具体的な戦略を作り上げていくうえで、まずは、全てに関わる総合的な課題として、ターゲットの明確化を行い、絞り込むことにより、個別課題の解決に取り組む。

滞在スタイル
日帰り・立ち寄り観光/宿泊観光
出発地
岸和田市内/京阪神/国内/海外
興味・関心
まつり好き層/歴史・お城好き層/グルメ層/自然・アウトドア層

## 第V章 第2次岸和田市観光振興計画 第1期行動計画(21P~)

### 1.課題解決の方向性 基本方針に基づき、具体的に＜第1期行動計画＞を設定。

方向性	基本方針	＜第1期行動計画＞	
総合課題: ターゲットの明確化	1.ターゲット属性の仮設を立て、行動計画に反映	ターゲット分析、動態調査 宿泊施設	
個別課題 A:コンテンツの充実	2.インバウンド観光の推進	インバウンド向けインフラについての調査研究 Wi-Fiについての調査研究	
	3.体験交流型観光の推進	だんじり文化を活用した体験プログラムの開発 観光資源を活かした体験プログラムの開発	
	4.お土産、食などの充実と地域活性化	岸和田ブランドの活用	
		「岸和田ならでは」のお土産開発	
水産物・農産物の活用			
		スポーツツーリズムを意識した展開	

方向性	基本方針	＜第1期行動計画＞
個別課題 B:効果的なプロモーションの実施	5.観光情報発信の強化	「岸ぶら」などのウェブサイト、SNSなどによる情報発信 ご当地キャラクターを活用した動画等による情報発信 旅行事業者などへの旅行商品化の働きかけ
	6.ターゲット発地でのプロモーション	身近なターミナル拠点におけるプロモーション 広域連携活動における発地でのプロモーション
	7.広域連携の推進	近隣市町との連携 DMO研究
個別課題 C:受け入れ体制の充実	8.観光人材の育成	職員向け研修の充実 講演会、ワークショップなどを通じての人材育成
	市、観光振興協会、商工会議所だけではなく、産官学連携した観光人材の育成に取り組む。	ボランティアガイドのさらなる充実 岸和田市観光振興協会の独自事業の充実
		教育機関との連携
		観光客受け入れ体制の充実

### 2.推進体制、事業評価体制

計画の検証は、本計画策定の主体となる委員会を実施。計画の推進にあたっては、定期的な会議において、事業報告、進捗状況確認、提案などを繰り返し、PDCAサイクルを実践予定。